

大雪山の素顔

だいせつざんのすがお

このコーナーでは、山岳ガイド、旭岳ビジターセンター、自然解説員など旭岳で活躍する人たちをリレーして、季節とともに変化する旭岳の旬のお便りをお届けします。

高山植物、紅葉、雪、動物など「自然の大博物館」と言われる大雪山の素顔が見えてくることでしょう。



ビジターセンターの「しぜんあんない」に参加中、旭岳を撮影するシンガポールからのお客さん

山の上に行く道

旭川で育った十数年と離れてからの数年間、旭岳（温泉）は「行き止まり」の場所だと思っていました。何処かに通りぬけることが出来ない道路の終わりにある山。原始の自然の美しさと静けさ、一方で何処にもつながっていないような寂しさやもどかしさ。

たくさんの人がいる賑やかな場所、多様な世界に触れられる場所は、この道を反対側に行ったところにあるものだと思っていました。

でも、山の上に毎日通うようになって、アレ？ 違うぞ！ と気がつきました。

旭岳では東京の人にも、沖縄の人にも、釧路の人にも出会い、親しく話せるのが日常です。日本語だけではなく、英語、中国語、スペイン語、知らない国の言葉も聞こえます。「一度来てみたかった」という人も、「気に入って毎年来ています」という人も、大雪山に惹かれて訪れたのです。また東川町には、山が好きで移り住んでいる人たちも多いですね。旭岳の仕事仲間もそうです。

そして、時に彼らが語る地球のどこかのふるさとの山や森・海・街のこと。売っている地図やガイドブックでは知り得ないものです。無数の人と情報が集まる都会でも、同じ価値のある話が聞けるかどうか。いつか時間とお金に余裕ができれば旅してみたい土地が随分増えました。

山の上に行く道は「行き止まり」ではなく、遠く離れた土地へこっそりつながっていたのです。この場所を訪れる多くの「人」を通じて。植物や動物を見たくて大雪山で働くことを選んだ（！）私ですが、この意外な発見を楽しむ毎日です。

パウダースノーの、花の、紅葉の季節、ぜひ旭岳を訪れてみてください。遠くからでもキラッと光って見える場所なのです。

旭岳ビジターセンター 田上千尋

短歌

美しく花を活けんと枝葉剪る常なる仕草も老いて身にしむ
名は知らぬ美しき花娘は買いて窓辺に置きしを日毎たのむ
ゆく年の鐘のひびきに願うなり新しき年の無事息災を
歌ひとつ作りて今日も暮れゆけり吾の余生はひと日減りたり
車椅子の夫はスーツに身をかけたため祝賀の宴の華やきに在り
達筆の友の便りも年を重ね筆のみだれば吾れとて同じ
言ひわけは聞きながします卓上の薔薇の一輪深呼吸する
冷え込むと今夜の予報聞きあれば納屋より室へ野菜とり込む
しみじみと歳の重なる淋しさを童顔の友がささやきてくる
冬空と思えぬ程のこの青さ星の光りにしばしみとれる
戦中のおんな時代あつてはならぬ「孫に伝えよ」と五十路の吾娘に
日に三度煙草を喫ふと決めしが妻が病みたり七度も喫ひぬ
寒中に毎年咲きくれるすみれ花時季を違わず今年もひらく

俳句

笛の音や巫女に合せて舞ふ落葉
小さき手をつなく学徒や初しぐれ
売られゆく馬の睫に初時雨
通院のうなじつくるう初時雨
初時雨侘しき増して灯を大に
あまつさえ唐の豆打つ鬼は外
緞帳の色暗くして初時雨
裸婦像が音なく濡れし初時雨
或る時は海図となりし冬銀河
雨に消す置き去り過去の神無月
ぼつねんと藁屋のかたむき村に雪

杉山 ひろのり
秋山 深雪
徳光 吐苦
杉山 知りつ
山口 佐知子
石澤 清宏
澤田 久美子
松山 蓉子
小野 露葉
青野 公花
宮坂 紫雲

瓜生 昭枝
岩田 ふじえ
松倉 和子
岡澤 ちず子
永江 栄子
矢沢 ますえ
宮坂 敬子
中田 治子
笹田 富士子
清田 ちよ子
嶋崎 ミエ子
尾池 真沙子